

## はしがき

どうも世の中は金本位制らしい。かつては「沈黙は金、雄弁は銀」という言葉があったが、いつの間にか西欧化したのか「雄弁が金」になったらしい。

日本にはまた、「燻し銀」（いぶしぎん）という言葉がある。最近とみに聞かない言葉だから、死語に近いのかもしれない。言葉も生き物で、世情の変化に付いていかなければならないから大変だ。

しかし、人の威厳や信義は簡単に変わってもらっては困る。それすら守れないところに文化はない。文化住宅が安っぽかったように、文化人も安易になった。いやこれは、文化という言葉自体が、元々安易だったのかも知れない。

学問研究も大切だが、誰かが威厳や信義を云々することはしないのか。それを哲学に任せておいてよいはずがない。

誰か、威信をかけてこうしたことを研究しないものか。研究がうまく行かなくて威信をなくしても良いのである。ただ威厳さえなくさなければ。

言語と文化の研究は、いよいよ今号でも盛んである。大方のご批判、ご叱正を期待したい。

2009年2月

『言葉と文化』第10号  
日本言語文化専攻長  
福田 真人